



Leaf

平成21年9月
盛岡市三本柳6-1-1
盛岡赤十字病院
地域医療連携室
発行責任者 院長 沼里 進

盛岡赤十字病院医療連携だより No.18

基本理念

私たちは、人道・博愛の赤十字精神にもとづき、みなさまの生命と健康を守るために、信頼される医療を実践します。

～緩和ケア病棟開設第Ⅱ報～

「もうひとつの我が家」 緩和ケア病棟のご案内

副院長兼緩和ケア科部長 旭 博史



旭 博史



緩和ケア科副部長
馬場 祐康



緩和ケア病棟看護師長
細川 牧子



病棟スタッフ（一部）
（勤務の都合で写らなかったスタッフ、ゴメンナサイ!!）

当院緩和ケア病棟は平成21年5月18日の開設から3ヶ月余りが経過いたしました。室内にまだ塗装のにおいが残った状態での開設でしたが、現在では周りの自然に調和して、緑に溶け込んだ落ち着いた病棟になりました。

病棟は院内独立型で全22床、すべて個室で、無料12室、有料（5,250円）9室、特別室（10,500円）1室が用意され、その他、キッチン付きラウンジ、面談室、家族控え室（畳）、特別浴室、日本庭園などがあります。約1か月の実施期間を経て、7月1日からは厚労省の施設基準による緩和ケア病棟入院料を算定しております。

緩和ケア病棟へ入院される場合には、おおよそ以下のような条件が必要になります。

- 1) 末期のがんと診断され、残された命が6ヶ月くらいであること。（現在かかっている医師からそのようなことをご家族が聞いていること。）
- 2) 患者ご本人が、自分が治る病気ではないことを理解していること。今後病気の治癒を目的とした抗がん剤治療やホルモン療法などを希望していないこと。とくに、患者ご本人とご家族がともに緩和ケア病棟の働きを十分に理解され、入院を希望されていることが重要です。

緩和ケア外来は週2日、専従医師2名で対応し、完全予約制で行っております。当院の緩和ケア病棟へ入院を希望の方が対象になります。病歴や現在の症状などをお聞きし、入院の適応を検討する場とさせていただきます。外来のみの管理（たとえば、検査、疼痛コントロールのための薬処方など）は基本的には行っておりません。外来受診後はこれらを基に、厚労省の施設基準に則り「緩和ケア病棟入院検討会」にて審議を行い、入院の適否を判断してご連絡いたします。また、緊急入院の対応はできませんので入院までの間は、現在の主治医のもとで対応をお願いいたします。

入院をご希望の方は、まず、「緩和ケア相談室」にご連絡下さい。担当者（ケースワーカー、保健師）が対応し、病状、お困りのことなどについてお話をうかがい、必要な方には緩和ケア外来の予約をさせていただきます。

緩和ケア外来と緩和ケア相談室のご案内

緩和ケア外来

- ◇診察日：毎週、月曜日・水曜日の2回
- ◇診療時間：午後1時～5時
- ◇診察室：1階総合診療センター内、「緩和ケア外来」
- ◇受診方法：
 - ①新患・再来とも完全予約制です。
 - ②外来予約は、お電話で外来看護師が対応いたします。
 - ③初診の場合は、主治医からの紹介状をご持参願います。

緩和ケア相談室

- 緩和ケア外来日以外は、「緩和ケア相談室」にて、ケースワーカー、保健師がご相談をお待ちいたしておりますので、お気軽に電話相談またはご来院ください。
- 電話：019-637-3111 内線：338
- ご相談受付時間：午前9時～午後4時

+ 内視鏡センターのご紹介 +

消化器科部長 藤原 隆 雄

当院の内視鏡センターは、平成18年9月、内科処置室脇から現在のA病棟1階に隣接する場所に移動しました。面積は約5倍の172㎡に拡張され、内視鏡ブースは3ヶ所、観察ベッド3台に増え、検査用トイレは車椅子用も含め3ヶ所、待合室、洗浄室も独立しました。そのため、余裕を持って検査や処置が行われるようになり、また、患者さんに対してのケアも行いやすくなりました。

同時期に機器の充実もはかられており、現在では、上部消化管内視鏡は経鼻内視鏡1台を含め計11台、下部消化管内視鏡7台、胆膵用内視鏡2台、気管支鏡2台を数えます。

スタッフは内視鏡技師4名を含め看護師7名、看護補助1名で、常に丁寧な対応を心がけており、患者さんからも好評です。医師は消化器内科、外科、呼吸器内科の医師が主に使用しています。

特に消化器内科は、私を含めて内視鏡を得意分野とする医師が増えたため、通常の検査だけではなく、各種治療内視鏡も積極的に行い始めています。

具体的には、早期胃癌に対する内視鏡切除（ESD～内視鏡的粘膜下層剥離術、EMR～内視鏡的粘膜切除術）、食道静脈瘤に対する治療（EIS～内視鏡的静脈瘤硬化療法、EVL～内視鏡的静脈瘤結紮術）、大腸ポリープ切除（polypectomy）、胆道膵管系治療（EST～内視鏡的十二指腸乳頭切開術、総胆管結石採石術、ステント挿入等）、消化管止血術、などを手がけています。

ESDは1998年に開発された比較的新しい手技で、私も前任地等で症例数を重ねてきたため、当院でも今年度から導入しています。この手技は現在の癌治療にはかかせないものとなっており、若手医師の指導も含め特に積極的に行いたいと考えています。

また胆道膵管系の治療に関しても、症例数が増加しており、今年度は8月までに前年度同期の3倍の件数を行っています。他施設から御依頼の多いPEG～内視鏡的胃瘻造設術、は外科が担当しています。

盛岡市内には、治療内視鏡可能な施設がほかにもありますが、主に盛南、紫波地区の症例については、可能な限り当内視鏡センターで対応させていただき、微力ながら地域医療に貢献させていただきたいと考えております。



スタッフと共に・・・ハイッ！撮ります。
前列左から柴田先生、藤原部長、菊池先生



検査室



回復室（3ベッド）





当院から + NST(栄養サポートチーム) の輪が広がります。

2009年1月当院は、
JSPEN日本静脈経腸栄養学会
栄養サポートチーム(NST)専門療法士認定規則に基く、
「実地修練認定教育施設」の認定を取得しました。

管理栄養士(NST専門栄養士) 鈴木 聖子

これまで皆様へNSTのご紹介やNSTが関わった治療、当院での活動についてご案内してまいりましたが、その後も院内スタッフや、地域医療機関のスタッフの方々と連携した活動を続けてまいりました。

このような中当院は、去る2009年1月28日付で、JSPEN日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム(NST)専門療法士認定規則に基く「実地修練認定教育施設」の認定を受けることができました。

一重に皆様のご支援、ご指導のおかげと御礼申し上げます。

県内ではすでに9施設で認定を受けており、今回当院で取得したことにより、10施設で栄養サポートチーム専門療法士受験の際に必要な実地修練が受けられることになりました。

NST専門療法士の受験資格については以下のとおりです。

<日本静脈経腸栄養学会認定資格 栄養サポートチーム専門療法士について>

取得可能な職種は現在のところ、管理栄養士、薬剤師、看護師、臨床検査技師です。

医師はありません(先生方におかれましては、学会指導医が取得可能です)。

栄養サポートチーム専門療法士(NST専門療法士)を有する管理栄養士・薬剤師・看護師・臨床検査技師は、それぞれ、「NST専門栄養士」、「NST専門薬剤師」、「NST看護師」、「NST専門臨床検査技師」と呼ばれます。

【受験資格】(日本静脈経腸栄養学会認定資格栄養サポートチーム専門療法士認定規則より抜粋)

- 1) 各職種とも5年間の勤務経験が必要。
- 2) 学会学術集会に1回(10単位)以上、学会主催の教育セミナー(10単位)に1回以上参加が必須。
学会が認める栄養に関する全国学会(5単位)、地方会(5単位)、研究会(5単位)に参加して総計30単位以上必要。
- 3) 認定教育施設において、合計40時間の実地修練を修了(当院で取得できます)。
- 4) 実地修練中に携わった栄養管理について、1600字以内の症例報告を受験前に書類と一緒に提出。
- 5) 5年間有効で更新する必要あり。

平成21年度の認定者(合格者)は、928名で、専門栄養士299名、専門看護師261名、専門薬剤師245名、専門臨床検査技師123名でした。近年、県内でも多くの医療職の方々が認定を受けています。

院内の医療チームのみならず、地域で継続した適切な栄養管理を患者様に行うために、多職種の専門的な知識、技術が必要となります。

皆様も認定を取得しませんか。

詳しくは、当院NST事務局(医療技術部栄養課)までお問い合わせください。

【電話:019-637-3111(内線375(盛岡赤十字病院医療技術部栄養課))】



管理栄養士(NST専門栄養士)
鈴木 聖子

退職いたしました

渡邊 聡 哉(耳鼻咽喉科部長)	平成21年5月31日付	伊藤 晴 方(呼吸器科部長兼アレルギー科部長)	平成21年8月31日付
及川 昌 隆(消化器科部長)	平成21年6月30日付		
鈴木 明 彦(検査部長兼消化器科副部長)	平成21年6月30日付		
呉 竹 昭 彦(皮膚科医師)	平成21年8月3日付		

お世話になりました